

卒業後1年のキャリア追跡調査

Follow-up Survey on the First-year Careers after Graduating from JIYUGAOKA SANNO College

風 戸 修 子

Shuko Kazato

江 崎 和 夫

Kazuo Ezaki

抄 録 自由が丘産能短期大学では、2007年度に卒業後1年のキャリアサポートを「プラスワンサポート」の名のもとに卒業生のキャリア満足を実現する取り組みを始めた。この取り組みが卒業生のキャリアサポートに結びついているかを実証するために、2007年度、2008年度の第Ⅰ部卒業生に向けて追跡調査した。2007年度卒業生にはアンケート調査とインタビュー調査、2008年度卒業生にはアンケート調査とケースライティングを行った。その結果次の3点が明らかになった。①卒業後1年目の卒業生は、現在の仕事に概ね満足しており、今後のキャリアについても、現在の仕事を優先して考え、日々の仕事が勉強であると捉えている。②短大で学んだ事で仕事に生かされているのは「ビジネスマナー」や「PC技能」である。③「プラスワンサポート」の有用性が確認された。今後の課題としては、①在学中からのキャリア教育と卒業後のキャリア支援の連動を視野に入れた教育の必要性である。②キャリア支援センターが卒業生のニーズを把握・反映させ、社会状況などに対応した柔軟な対策を行っていくことである。

キーワード 卒業後1年、キャリア支援、仕事の満足度、キャリア支援センター、プラスワンサポート

1. はじめに
2. 短大における「キャリア教育」と「キャリア支援」の状況
 2. 1 キャリア教育
 2. 2 キャリア支援
3. 「プラスワンサポート」の概要
 3. 1 5つのプラスワンサポート
 3. 2 プラスワンサポートの内容
4. 「プラスワン」アンケート調査
 4. 1 調査目的
 4. 2 2008年度アンケート調査の概要
 4. 3 2009年度アンケート調査の概要
5. 卒業後1年のキャリア追跡調査（プラスワンアンケート）の分析結果
 5. 1 卒業後1年のキャリア追跡調査（2008年度）
 5. 2 卒業後1年のキャリア追跡調査（2009年度）
6. インタビューとケースライティングに見る卒業生の状況
 6. 1 インタビュー調査の実施
 6. 2 ケースライティングの実施
7. 結論と今後の課題
 7. 1 まとめと考察
 7. 2 今後の課題

1. はじめに

近年、若年者の就業の課題は年々深刻さを増している。中卒の7割、高卒の5割、大卒の3割が就職3年以内に離職するという「753問題」にみられる若年離職率の高さもその一つである。厚生労働省「平成20年度版労働経済白書」によれば、2004年3月に卒業した者のうち、就職後3年以内に離職した者の割合が、高校卒で49.5%、大卒で36.6%、大学卒では3年以内の離職率が過去最高水準となっている。

このような状況の中で、高等教育機関においても学生の就職活動、及び就業の継続に関してサポートを強化している。

自由が丘産能短期大学の就職支援体制は、過去の卒業生アンケート調査からも高い評価がなされてきた。しかし現在の企業や職場状況の変化の中で、就職活動を行う学生や働き始めた卒業生は厳しい現実直面している。本学では2007年度にキャリア支援の推進・充実プロジェクトが卒業後1年のキャリアサポートを「プラスワンサポート」の名のもとに卒業生のキャリア満足を実現する取り組みを始めた。この取り組みが卒業生のキャリアサポートに結びついているかを実証するために追跡調査が行われた。

本研究レポートでは、この調査で得られた

データをより詳細に分析し、今後の卒業生のキャリア支援の在り方や在学時におけるキャリア教育の方向性を検討するものである。

2. 短大における「キャリア教育」と「キャリア支援」の状況

本学では、「キャリア教育」と「キャリア支援」を連携し、学生の「社会的自立と職業的自立」を図っている。

2. 1 キャリア教育

本学では、「大学の学びのための基礎能力」、「働くための基本能力」、「ビジネス実務能力」、「現代社会を生きる力」の4つの能力を育成している。本学の「キャリア教育」は、「現代社会を生きる力」として位置づけている。本学の「キャリア教育」を通じて、「生涯を通じた持続的な就業力の育成をはかる」ことを目指している。

本学でキャリア教育の中核となっている科目は、図表1の通りである。

2. 2 キャリア支援

本学では、「SANNO4つのサポート」の名の下に、総合的的学生支援を実施している。4つのサポートとは、「アカデミックサポート」、「学びのサポート」、「キャリアサポート」、

図表1 キャリア教育の科目

キャリア教養科目群	科目の内容
就業とキャリア	就業意識の形成、自己表現、就職活動の進め方
キャリアと生活設計	卒業後の社会的自立と職業的自立
現代マネジメントフォーラム	卒業生を招いて就業体験談、ビジネス環境・生活環境
ビジネスインターンシップ	企業での実習、事前学習、振り返り
ビジネスマナー	ビジネスマナー、応対の基本のマスター
ビジネス文書表現	ビジネス文書の作成スキル、Wordを使った実務

図表2 「キャリア支援」(就職対応)の内容

キャリア支援	キャリア支援の内容
アカデミックアドバイザー面談	アカデミックアドバイザーによる進路確認、アドバイス
キャリアカウンセラー面談	キャリア支援センターのキャリアカウンセラーによる進路確認、アドバイス
学内合同企業説明会	業者主催で、学内において複数の企業説明会を実施する
企業情報収集セミナー	マイナビなどによる求人情報、企業情報の収集の仕方
就職活動スケジュール	就職活動のスケジュールを説明
職業レディネステスト	適性検査を実施する
電話のかけ方・受け方	就職活動に対する電話のかけ方・受け方
履歴書の書き方	履歴書、エントリーシートの書き方指導
面接対策セミナー	面接の進め方の実践
模擬面談	キャリアカウンセラー、教員による模擬面談の実施
強み引き出しセミナー	自己分析により強みを引き出し、表現できるようにする
グループディスカッションセミナー	グループディスカッション対策
ヘアメイク術	就職活動におけるヘアメイク術、服装の指導
内定者座談会	内定者の体験談
OG 座談会	各業種、職種に就職した卒業生の体験談、仕事の体験談
人事担当者による仕事解説	人事担当者を招き企業での仕事の内容と進め方を解説
SPI 模擬試験	入社試験の SPI 模擬試験を受験する
一般常識試験対策	一般常識試験への対策指導
論作文対策セミナー	入社試験の論文・作文の対策
業界セミナー	特定の業界の人が、求められる人材、仕事内容などを説明
労働法基礎知識	労働法など働くことに関する基礎知識、制度などを解説

図表3 「キャリア支援」(編入学対応)

キャリア支援 (編入学)	キャリア支援の内容
編入学ガイダンス	編入学のための活動の進め方
卒業生座談会	編入学した卒業生の体験談
編入学指導	英語など編入学試験の対策指導
志願書指導	編入学の志願書の添削指導
模擬面接	模擬面接の実施、指導

「サービスラーニングサポート」から構成されており、その名の通り「キャリア支援」は「キャリアサポート」で実施されている。

「キャリア支援」は、教職員による学生に対する進路形成上の支援のことである。本学では、円滑な就職活動を行うための就職ガイダンス、キャリア相談、模擬面接、就職支援講座、学内合同企業説明会、編入指導などを、図表2、図表3にあげたプログラムによって支

援を行っている。とくに、未内定者に対しては、新たな施策を実施し、手厚い対応をしている。

キャリア支援の課題としては、経済状況の悪化に伴う雇用情勢の悪化、学生の多様化、就職先の業種・職種の多様化に対応して、個人指導を含む少人数に対するキャリア支援のニーズが高まっていることから、新しい施策を検討し実施しつつある。

3. 「プラスワンサポート」の概要

3. 1 5つのプラスワンサポート

プラスワンサポートは、キャリア支援センターが主体となって、卒業後1年以内の卒業生に対して、図表4のようなキャリア面の5つのサポートを行うことである。

3. 2 プラスワンサポートの内容

3. 2. 1 プラスワンデスク

「プラスワンデスク」をキャリア支援センター内に設置し、次の2つの機能を持たせている。「学び場デスク」を開設し、キャリア支援センターの職員が、能力開発や資格取得など学びに関連する相談を受け付け、アカデミック・アドバイザーからの指導も受けられるよう体制を整備している。もう一つは、「しゃべり場パーク」を開設し、キャリア支援センターの職員が、卒業生の仕事の悩みや今後のキャリアについての相談に応じている。

3. 2. 2 プラスワンレター

卒業生に対して、卒業後にスキルアップのヒント等を記載した手紙「プラスワンレター」を卒業生全員に送付している。プラスワンレターは、新入社員時の職場配属→適応→戦力化といった流れを前提に、年に3回送付し、

職場内でのキャリアアップ、個人のスキルアップのヒントや教員からのメッセージ等を盛り込んでいる。

3. 2. 3 プラスワン講演会

「プラスワン講演会」を卒業前に実施し、プラスワン相談体制の説明、キャリア講演会、プラスワンカードの配布などを実施している。

①プラスワン相談体制の説明

卒業時の1月に全卒業生に対して、キャリア支援センタースタッフが、プラスワンサポートの体制について説明している。

②キャリア講演会

外部講師などのキャリア専門家により、「社会人としての心構え」などのテーマに関してキャリア講演会を実施する。

③プラスワンカードの配布

キャリア支援センターの電話番号を記載し、卒業生にいつも保持してもらう。

3. 2. 4 「半年後の自分への手紙」

卒業時に卒後半年後の自分に対して手紙を書いてもらう。それを半年後に本学から本人に郵送する。プラスワン講演会の時に、作成を行っている。

図表4 プラスワンサポートの概要

プラスワンサポート	プラスワンサポートの内容
1) プラスワンデスク	卒業生のキャリア相談に対応
2) プラスワンレター	3回のレターを卒業生に送付
3) プラスワン講演会	卒業直前に学生に対してキャリアに関する講演を実施
4) 半年後の私への手紙送付	半年後の自分に対して学生が手紙を書く
5) 卒業生相談 DAY	卒業生に案内をし、相談 DAY の来学を呼びかける

3. 2. 5 卒業生相談DAYの実施

卒業生に対してプラスワンレターなどを通じて「卒業生相談DAY」の案内を行い、卒業生に来学を呼びかけている。

4. 「プラスワン」アンケート調査

2008年度は2008年3月卒業の卒業生に対しアンケート調査とインタビュー調査を実施し、2009年度は2009年3月卒業の卒業生に対して、アンケート調査とケースライティングによる体験の聞き取り調査を実施した。

4. 1 調査目的

卒業後半年後の卒業生が、次の3点についてどのようにとらえているかを把握することによって、今後の本学のキャリア支援の充実を図る目的で実施した。

- ①現在の仕事に対する満足度と仕事でできていると思うこと
- ②これからの自分自身のキャリアについて
- ③キャリア支援に望むこと

4. 2 2008年度アンケート調査の概要

・対象：自由が丘産能短期大学 2008年3月卒 第Ⅰ部卒業生

・調査方法：郵送によりアンケート用紙を配布し、記入後、返送を依頼した。また11月に行われた自由が丘産能祭のOGカフェへ来訪した該当卒業生に依頼した。

・回収率：19.2% (88名／459名)

・調査期間：2008年10月15日～2008年11月17日

・回答者の属性：

卒業したコース

ビジマネ	秘書	観光国際	経営情報	メディア	医療情報	全体
13	16	17	13	16	13	88 (人)
14.8%	18.2%	19.3%	14.8%	18.2%	14.8%	100.0%

職業

会社員正社員	契約・嘱託	派遣社員	パート	アルバイト	学生	無職	その他	未回答	全体
70	4	1	1	3	3	0	0	6	88 (人)
79.6%	4.6%	1.1%	1.1%	3.4%	3.4%	0.0%	0.0%	6.8%	100.0%

4. 3 2009年度アンケート調査の概要

・対象：自由が丘産能短期大学 2009年3月卒 第Ⅰ部卒業生

・調査方法：郵送によりアンケート用紙を配布し、記入後、返送を依頼した。また11月に行われた自由が丘産能祭のOGカフェへ来訪した該当卒業生に依頼した。

・回収率：16.7% (74名／444名)

・調査期間：2009年10月15日～2009年11月17日

・回答者の属性：

卒業したコース

ビジマネ	秘書	観光国際	医療情報	メディア	経営情報	全体
14	16	5	16	3	20	74
18.9%	21.6%	6.8%	21.6%	4.0%	27.0%	100.0%

職業

会社員正社員	契約・嘱託	派遣社員	パート	アルバイト	学生	無職	その他	未回答	全体
63	4	0	0	2	1	0	1	3	74
85.1%	5.4%	0.0%	0.0%	2.7%	1.4%	0.0%	1.4%	4.1%	100.0%

5. 卒業後1年のキャリア追跡調査（プラスワンアンケート）の分析結果

5. 1 卒業後1年のキャリア追跡調査（2008年度）

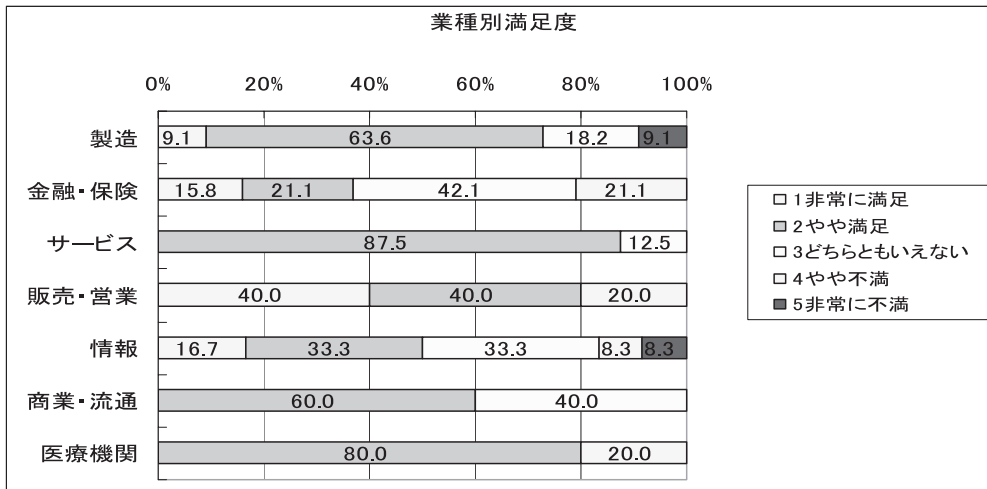
5. 1. 1 現在の仕事の満足度 総合的な満足度

全員に対して聞いた現在の仕事の満足度は、図表5の通りである。それによると、「やや満足」が「44.4%」で最も多く、「非常に

図表 5

1 非常に満足	2 やや満足	3 どちらともいえない	4 やや不満	5 非常に不満
14.9	44.4	24.7	11.1	4.9

図表 6 業種別満足度



満足」の「14.9%」と合わせると、全体の「約60%」が満足の傾向を示していることがわかる。また、「やや不満」と「非常に不満」をあわせた「16%」が不満の傾向を示していることがわかる。

5. 1. 2 業種別総合的満足度

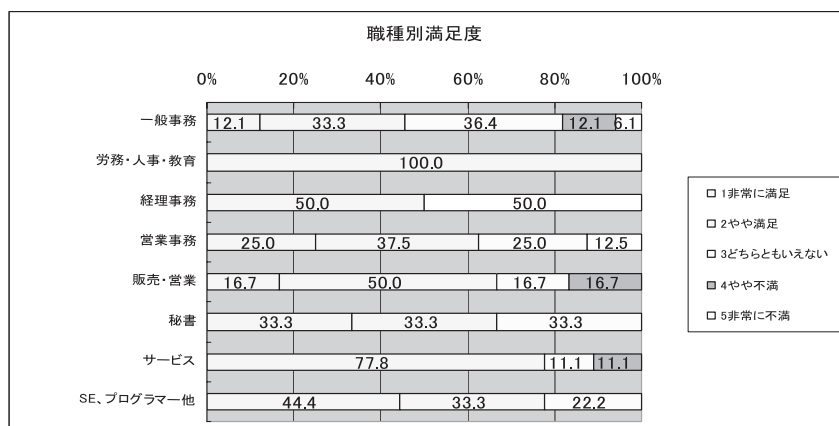
「業種別」に現在の仕事の総合的な満足度について、図表6に基づいて分析する。質問は「総合的に見て、現在の仕事に対する満足度は」である。「業種別」の人数が多かった業種は、順に「金融・保険業」(16名)、「製造業」(11名)、「情報」(9名)、「サービス」(6名)であった。「金融・保険業」に従事している卒業生は、「非常に満足」が「15.8%」であったが、「やや満足」が「21.1%」であった。それに対して、「やや不満」が

「21.1%」,「非常に不満」が「0%」あった。満足度があまり高くないことが分かった。

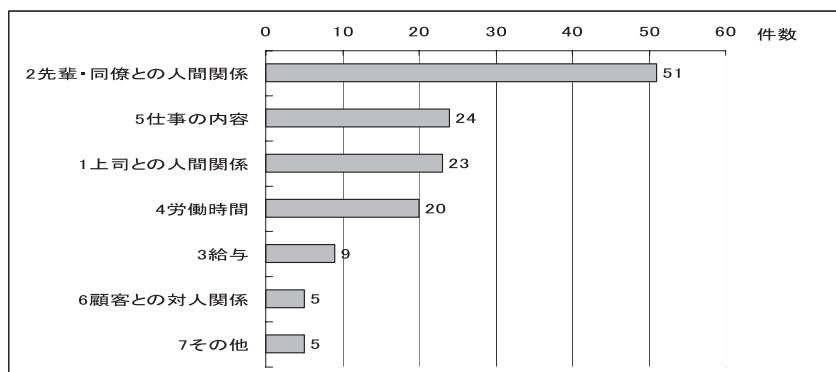
「製造業」に従事している卒業生は、「非常に満足」が「9.1%」であったが、「やや満足」が「63.6%」であった。それに対して、「やや不満」が「0%」,「非常に不満」が「9.1%」あった。満足度が高い卒業生が多いことが分かった。不満を持つ卒業生も多少いることが分かった。

「情報」に従事している卒業生は、「非常に満足」が「16.7%」であったが、「やや満足」が「33.3%」であったので、半数の学生が満足していることが分かった。それに対して、「やや不満」が「8.3%」,「非常に不満」が「8.3%」あった。

図表 7 職種別満足度



図表 8 現在の仕事で満足している点（複数回答）（データ件数）



5. 1. 3 職種別総合的満足度

「職種別」に現在の仕事の総合的な満足度について、図表7に基づいて分析する。質問は「総合的に見て、現在の仕事に対する満足度は」である。「職種別」の人数が多かった3職種は、順に「一般事務」（36名）、「営業事務」（9名）、「サービス」（9名）であった。

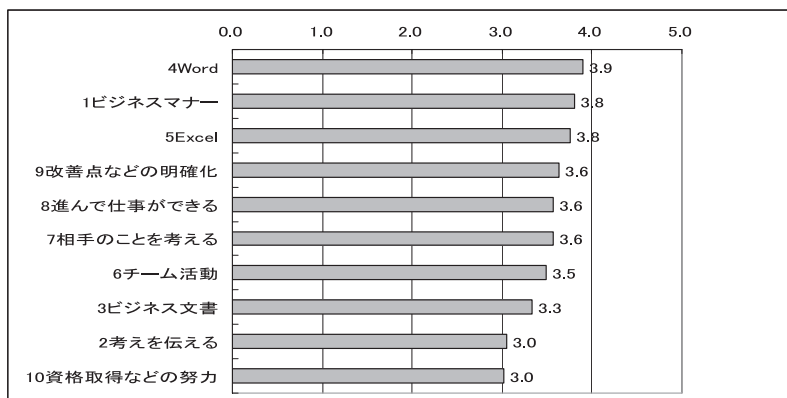
「一般事務」に従事している卒業生は、「非常に満足」が「12.1%」であったが、「やや満足」が「33.3%」であった。それに対して、「やや不満」が「12.1%」,「非常に不満」が「6.1%」あった。満足度が高いが、不満を持つ卒業生も約20%いることが分かった。

「営業事務」に従事している卒業生は、「非常に満足」が「25.0%」であったが、「やや満足」が「37.5%」であった。それに対して、「やや不満」が「0%」,「非常に不満」が「12.5%」あった。満足度が高いが、不満を持つ卒業生も少しいることが分かった。

「サービス」に従事している卒業生は、「非常に満足」が「0.0%」であったが、「やや満足」が「77.8%」であった。それに対して、「やや不満」が「11.1%」,「非常に不満」が「0.0%」あった。満足度が非常に高いことが分かった。

図表9 仕事でできていると思うこと（5段階平均）

1.全くそう思わない 2.あまりそう思わない 3.どちらともいえない 4.ややそう思う 5.とてもそう思う



5. 1. 4 現在の仕事で満足している点（要因）

現在の仕事で満足している点について、図表8に基づいて分析する。現在の仕事で満足している点（要因）としては、「先輩・同僚との人間関係」、「仕事の内容」、「上司との人間関係」が上位になっている。先輩・同僚・上司との人間関係がもっとも重要であることがわかる。また、仕事の内容も重要としている。

5. 1. 5 仕事でできていると思うこと

「仕事でできていると思うこと」について、図表9に基づいて分析する。質問は「今、自分が仕事でできていると思うことについて」である。社会に出て1年間の経験で、「仕事でできていると思うこと」を聞いた結果、グラフにあるように、「Wordのスキル」、「ビジネスマナー」、「Excelのスキル」が上位に挙げられた。それに対して、「仕事でできていると思うこと」を聞いた結果、下位に挙げられたのは、「資格取得などの努力」、「考えを伝える」、「ビジネス文書」であった。しかし下

位といっても、3.0と、低い数値ではない。

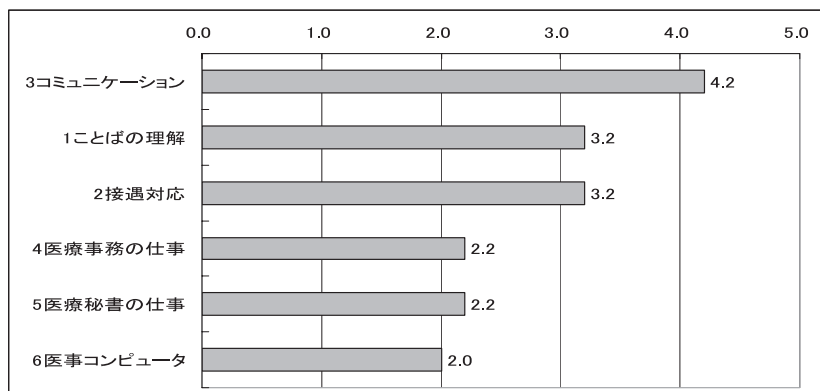
上位に挙げられた「Wordのスキル」と「Excelのスキル」は、本学で行っているPCリテラシーの授業が一定の成果をあげていると判断できる。また、「ビジネスマナー」は、実践的であり、すぐに社会で使えている実感があると判断できる。

5. 1. 6 仕事でできていると思うこと（医療系）

調査対象年度の卒業生については、医療・情報サービスコースのはじめての卒業生でもあることから、とくに、医療系の卒業生に対してもアンケートを行った。医療系の学生が社会に出て1年間の経験で、「仕事でできていると思うこと」を聞いた結果、グラフにあるように、「看護師など他のスタッフとのコミュニケーションがとれる」、「基本的な医療関係のことばが理解できる」、「医療窓口での患者に対する接遇対応ができる」が上位に挙げられた。それに対して、下位に挙げられたのは、「医事コンピュータを操作し、レセプト作成ができる」、「医療事務の事務作業（レセ

図表10 仕事でできていると思うこと（医療系）（5段階平均）

1.全くそう思わない 2.あまりそう思わない 3.どちらともいえない 4.ややそう思う 5.とてもそう思う



プト作成)ができる」,「医療秘書の仕事」であった。

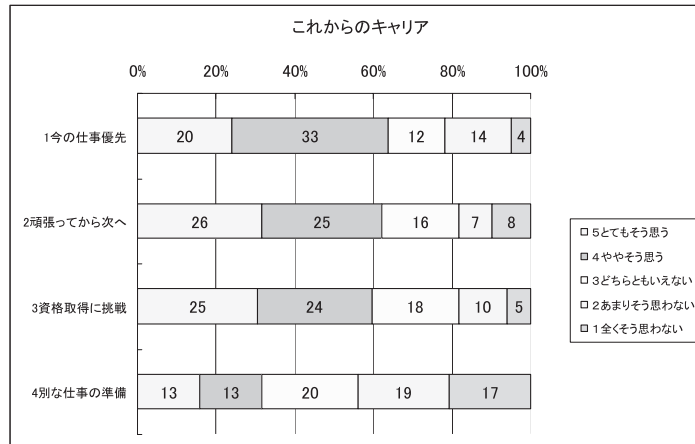
「仕事でできていると思うこと」の上位に挙げられた「看護師など他のスタッフとのコミュニケーションがとれる」は、他の医療スタッフの仕事の内容を理解するための授業や、他のスタッフとのコミュニケーションに関して学ぶ授業が効果的であったと判断できる。「基本的な医療関係のことばが理解できる」は、他の医療スタッフとのコミュニケーションを行う際に、やりとりで用いる医療系の用語を理解できるということであり、コースの科目全体の学習を通じて専門用語がある程度理解できていると判断できる。

「仕事でできていると思うこと」の下位に挙げられた「医事コンピュータを操作し、レセプト作成ができる」, 医事コンピュータの対応の授業があったが、医事コンピュータソフトが2人に1人しか使えないため演習時間が十分ではなかったことを示している。現在は、パソコンのソフトを1人1台にし、演習時間を倍にできたため対応はできていると思われる。

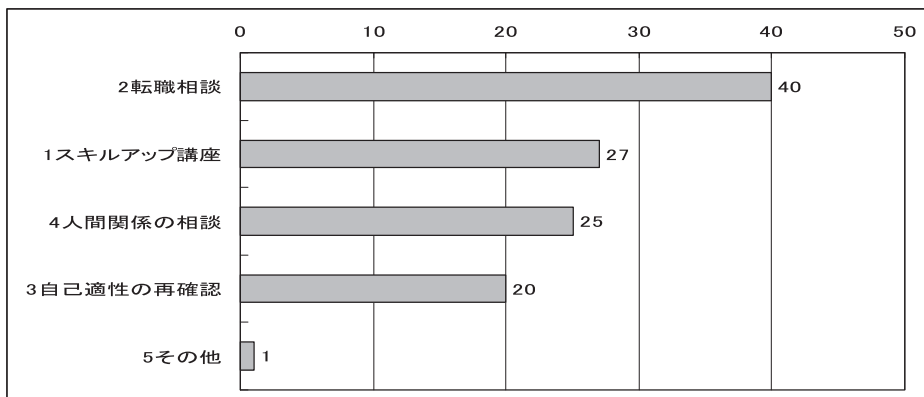
5. 1. 7 これからのキャリア

卒業生に「これからのキャリア」について聞いた。「今の仕事が優先」という項目に「とてもそう思う」と「ややそう思う」というように肯定的な回答をした卒業生は、60%以上であった。否定的な回答をした卒業生は20%以下であった。これは、卒業後1年であることから、まず自分の仕事に集中しようという気持ちをもっていることがわかる。「今の仕事でがんばってから次のステップ」という項目に、肯定的な回答をした卒業生は、60%程度であった。否定的な回答をした卒業生は約15%であった。「資格取得などに挑戦」という項目に、肯定的な回答をした卒業生は、50%程度であった。否定的な回答をした卒業生は15%程度であった。「別な仕事につく準備」という項目に、肯定的な回答をした卒業生は、25%程度であった。否定的な回答をした卒業生は35%程度であった。これは、「今の仕事が優先」という項目に対する回答と傾向が一致している。

図表11 これからのキャリア



図表12 プラスワン活動に期待すること（複数回答）（データ件数）



5. 1. 8 プラスワン活動に期待すること

「プラスワン活動に期待すること」について分析する。質問は「プラスワン活動全般について期待・希望すること」である。「転職相談」, 「スキルアップ講座」が上位に挙げられた。

5. 2 卒業後1年のキャリア追跡調査（2009年度）

2009年度10月には「就職内定後から卒業後

1年までのキャリア追跡調査」を2008年度卒業生全員に実施した。現在の仕事や短大のキャリア支援について聞いた。

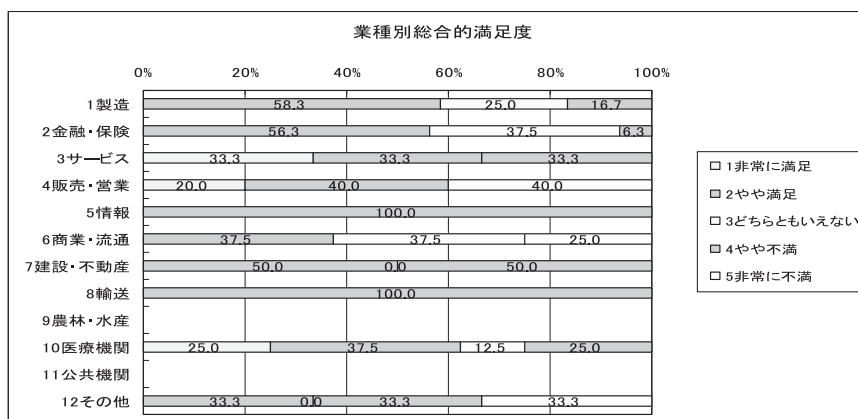
5. 2. 1 現在の仕事の満足度 総合的な満足度

全員に対して聞いた現在の仕事の満足度は、「やや満足」が「52.9%」で最も多く、「非常に満足」の「5.9%」と合わせると、全体の「約60%」が満足の傾向を示しているこ

図表13 現在の仕事の満足度

1 非常に満足	2 やや満足	3 どちらともいえない	4 やや不満	5 非常に不満
5.9	52.9	23.5	13.2	4.4

図表14 業種別満足度



とがわかる。また、「やや不満」と「非常に不満」をあわせた「約20%」が不満の傾向を示していることがわかる。

5. 2. 2 業種別総合的満足度

「業種別」に現在の仕事の総合的な満足度について、図表14に基づき分析する。質問は「総合的に見て、現在の仕事に対する満足度は」である。「業種別」の人数が多かった業種は、順に「金融・保険業」(16名)、「製造業」(13名)、「商業・流通」(8名)、「医療機関」(8名)であった。「金融・保険業」に従事している卒業生は、「非常に満足」が「0%」であったが、「やや満足」が「56.3%」であった。それに対して、「やや不満」が「6.3%」,「非常に不満」が「0%」あった。満足度が高く、不満を持つ卒業生が少ないことが分かった。「製造業」に従事している卒業生は、「非

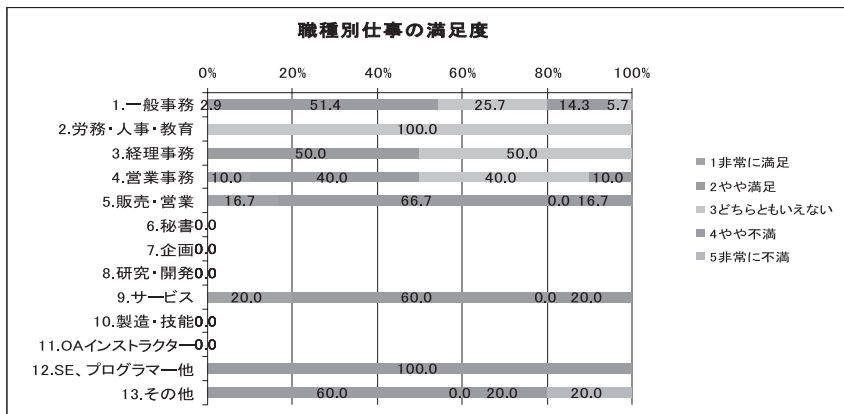
常に満足」が「0%」であったが、「やや満足」が「58.3%」であった。それに対して、「やや不満」が「16.7%」,「非常に不満」が「0%」あった。満足度が高い卒業生は、「金融・保険業」と同じ程度高いが、不満を持つ卒業生も比較的多いことが分かった。

5. 2. 3 職種別総合的満足度

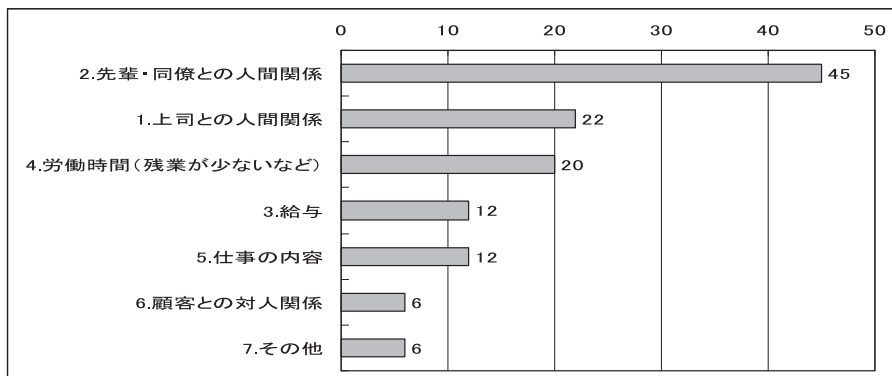
「職種別」に現在の仕事の総合的な満足度について、図表15に基づいて分析する。質問は「総合的に見て、現在の仕事に対する満足度は」である。「職種別」の人数が多かった3職種は、順に「一般事務」(35名)、「営業事務」(11名)、「サービス」(7名)であった。

「一般事務」に従事している卒業生は、「非常に満足」が「2.9%」であったが、「やや満足」が「51.4%」であった。それに対して、「やや不満」が「14.3%」,「非常に不満」

図表15 職種別満足度



図表16 現在の仕事で満足している点（データ件数）



が「5.7%」あった。満足度が高いが、不満を持つ卒業生も約20%いることが分かった。

「営業事務」に従事している卒業生は、「非常に満足」が「10.0%」であったが、「やや満足」が「40.0%」であった。それに対して、「やや不満」が「10.0%」,「非常に不満」が「0.0%」あった。満足度が高く、不満を持つ卒業生も少ないことが分かった。

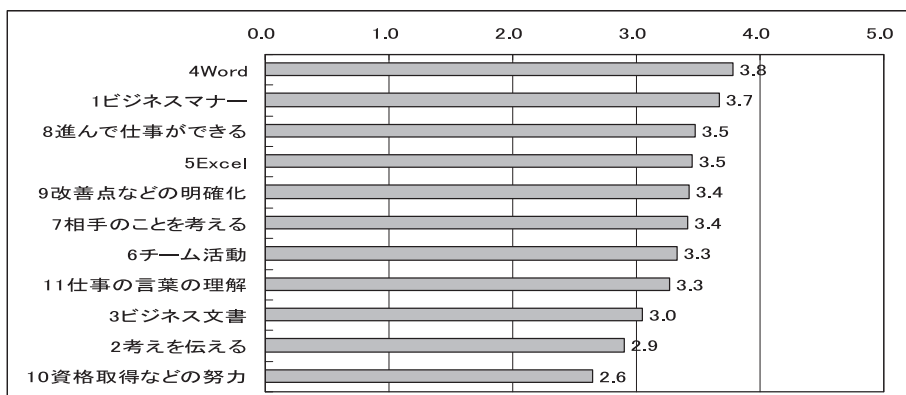
「サービス」に従事している卒業生は、「非常に満足」が「20.0%」であったが、「やや満足」が「60.0%」であった。それに対して、「やや不満」が「20.0%」,「非常に不満」

が「0.0%」あった。満足度が非常に高いが、やや不満を持つ卒業生も20%いることが分かった。

5. 2. 4 現在の仕事で満足している点（要因）

現在の仕事で満足している点（要因）としては、「先輩・同僚との人間関係」,「上司との人間関係」,「労働時間（残業が少ないなど）」が上位になっている。

図表17 仕事でできていると思うこと（5段階平均）



5. 2. 5 仕事でできていると思うこと

「仕事でできていると思うこと」について図表17に基づいて分析する。質問は「今、自分が仕事でできていると思うことについて」である。社会に出て1年間の経験で、「仕事でできていると思うこと」を聞いた結果、グラフにあるように、「Wordのスキル」、「ビジネスマナー」、「進んで仕事ができる」、「Excelのスキル」が上位に挙げられた。それに対して、「仕事でできていると思うこと」を聞いた結果、下位に挙げられたのは、「資格取得などの努力」、「考えを伝える」、「ビジネス文書」であった。

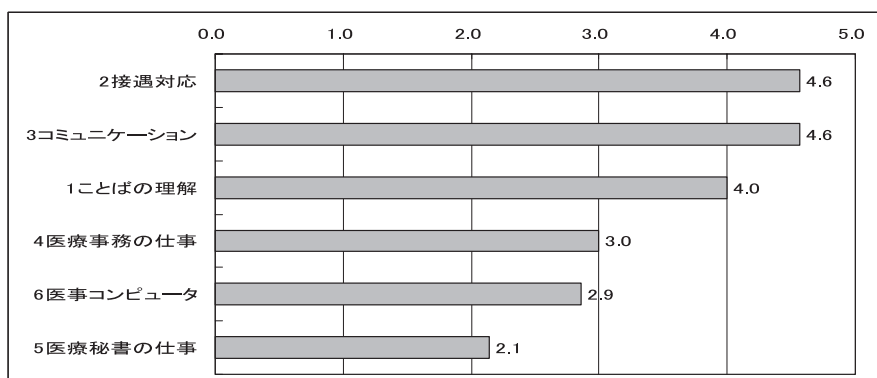
上位に挙げられた「Wordのスキル」と「Excelのスキル」は、本学で行っているPCリテラシーの授業が一定の成果をあげていると判断できる。また、「ビジネスマナー」は、実践的であり、すぐに社会で使えている実感があると判断できる。「進んで仕事ができる」が上位にきたのは、本学において仕事に取り組むマインドがしっかりと育成されていることを示している。

5. 2. 6 仕事でできていると思うこと（医療系）

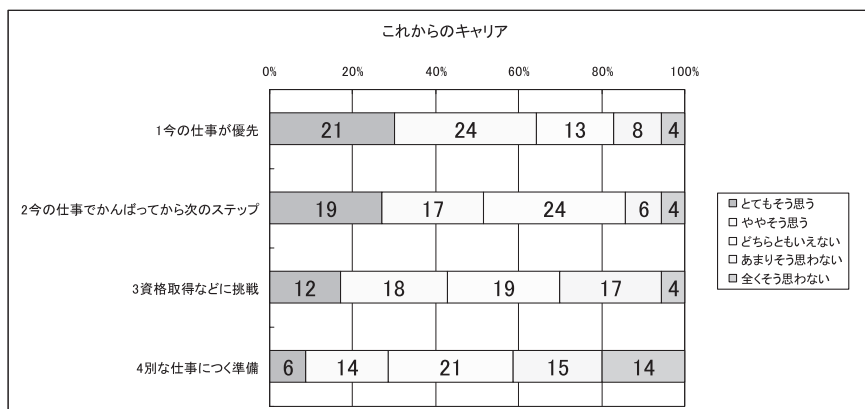
医療系の学生が社会に出て1年間の経験で、「仕事でできていると思うこと」を聞いた結果、グラフにあるように、「医療窓口での患者に対する接遇対応ができる」、「看護師など他のスタッフとのコミュニケーションがとれる」、「基本的な医療関係のことばが理解できる」、が上位に挙げられた。それに対して、「仕事でできていると思うこと」を聞いた結果、下位に挙げられたのは、「医事コンピュータを操作し、レセプト作成ができる」、「医療事務の事務作業（レセプト作成）ができる」であった。

「仕事でできていると思うこと」の上位に挙げられた「医療窓口での患者に対する接遇対応ができる」は、もともと上位であったが、前年度が3.2であったのに対して4.6と大幅に向上しており、医療窓口での接遇演習の授業が実践的であり成果がさらにあがるようになったと判断できる。また、「看護師など他のスタッフとのコミュニケーションがとれる」は、他の医療スタッフの仕事の内容を理解するための授業や、他のスタッフとのコミュニ

図表18 仕事でできていると思うこと（医療系）（5段階平均）



図表19 これからのキャリア



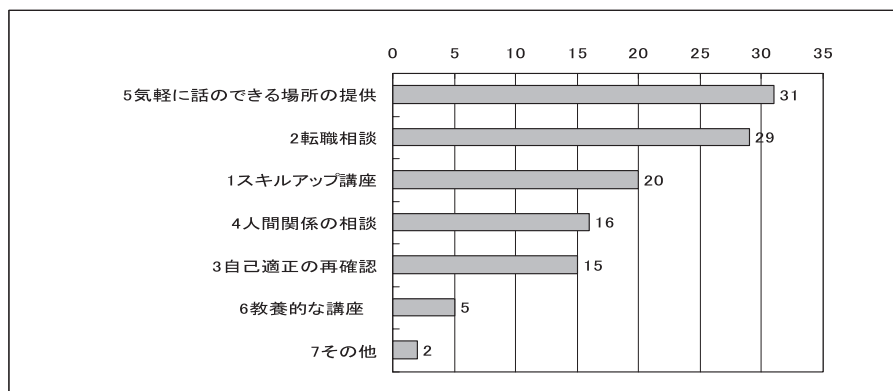
ケーションに関して学ぶ授業が効果的であったと判断できる。

「仕事でできていると思うこと」の下位に挙げられた「医事コンピュータを操作し、レセプト作成ができる」については、下位ではあるが、前年のアンケート結果の平均が2であったのに対して、3.33と向上が見られたので、対応は進んでいると思われる。また、「医療事務の事務作業（レセプト作成）ができる」は、前年が2.2であったものが、3.5となっており、これも向上していることから、対策の効果は出つつあると思われる。

5. 2. 7 これからのキャリア

卒業生に「これからのキャリア」について聞いた。「今の仕事が優先」という項目に「とてもそう思う」と「ややそう思う」というように肯定的な回答をした卒業生は、60%以上であった。否定的な回答をした卒業生は20%以下であった。これは、卒業後1年であることから、まず自分の仕事に集中しようという気持ちをもっていることがわかる。「今の仕事でがんばってから次のステップ」という項目に、肯定的な回答をした卒業生は、50%程度であった。否定的な回答をした卒業

図表20 プラスワン活動に期待すること（データ件数）



生が一番少なかった。「資格取得などに挑戦」という項目に、肯定的な回答をした卒業生は、40%程度であった。否定的な回答をした卒業生は30%程度であった。卒業後の仕事に役立つ資格をみつけた卒業生が少ないのではないと思われる。「別な仕事につく準備」という項目に、肯定的な回答をした卒業生は、30%程度であった。否定的な回答をした卒業生は40%程度であった。これは、「今の仕事が優先」という項目に対する回答と傾向が一致している。

5. 2. 8 プラスワン活動に期待すること

「プラスワン活動に期待すること」について分析する。質問は「プラスワン活動全般について期待・希望すること」である。「気軽に相談できる場所の提供」、「転職相談」、「スキルアップ講座」が上位に挙げられた。

6. インタビューとケースライティングに見る卒業生の状況

6. 1 インタビュー調査の実施

2008年度は、アンケート調査の結果を受けて、よりよいサポート体制の糸口を見出すた

めにインタビュー調査を行った。この年の月の卒業生の中には、医療情報コースで学んだ1期生がいた。医療系の就職先に関する情報を収集するために2名のインタビュー調査を実施した。

6. 1. 1 インタビュー調査の概要

- ・調査対象：2007年度卒業生 計6人
- ・調査方法：対面式によるインタビュー、所要時間は1人あたり1時間程度。
- ・調査場所：自由が丘産能短大ミーティングルーム
- ・調査期間：2009年2月11日、12日、16日

図表21 インタビュー対象者の出身コースと勤務先

	コース	勤務先
Yさん	秘書	不動産会社勤務
Fさん	観光・国際	メーカー勤務
Mさん	医療情報サービス	病院勤務
Yさん	医療情報サービス	病院勤務
Uさん	ビジネスマネジメント	メーカー勤務
Tさん	メディアデザイン	メーカー勤務

6. 1. 2 インタビュー調査の結果

(1) 現在の仕事と卒業後1年間の変化について

①現在行っている仕事：

- ・不動産業：受付や庶務。営業の仕事もすることがある。
- ・一般企業：使用支払い業務や電話対応。営業事務。
- ・病院医：カルテ室に配属され、カルテ管理。病院外来窓口業務。
- ・メーカー：設計部署で、庶務や設計アシスタントとしての業務。

②仕事で必要とされている能力

- 仕事に応じた能力の必要性を感じている。
 - ・注意力：一つのミスで大勢の人に迷惑をかけることになる。
 - ・状況判断力：どうしたら円滑に仕事が進むかを常に考える必要がある。
 - ・責任感：個人情報扱う仕事では自分の行動に責任を持たねばならない。
 - ・正確性：お金を扱う仕事では、正確性と精神力が必要とされる。
 - ・行動力：問題を自ら発見して、自分で解決していくことが大切だと思う。
 - ・伝える力：教える立場に立つ場合、的確に物事を伝える力が必要だと感じる。
 - ・集中力：慣れによるケアレスミスが目立つため。
- #### ③仕事をしてみて感じたこと
- ・責任が重く、想像以上に辛い。
 - ・患者様と接する仕事をしたかったが、バックヤードの仕事になった。
 - ・内部での上下関係が強く大変な思いをしている。
 - ・バックヤードの仕事をしたかったが受付の

配属になり複雑。

- ・仕事で理不尽さを感じる事が多く、苦勞している。
- ・女性是一人、静かで淡々とした部署で、環境に慣れるのが大変だった。
- ・研修期間が予想以上に長かった。

④短大で勉強したことで現在の仕事に役立っていること

- 「ビジネスマナー」の授業が役立っている、という回答が多数だ。その他、コース専門科目（レセプト、ホスピタリティなど）の意見も多くみられた。
- ・敬語の使い方（窓口で人と接する際など）
- ・立ち居振る舞い（エレベーターに乗る際など）
- ・文書作成（会議での議事録作成時）
- ・お茶の出し方
- ・パソコンの基本操作
- ・電話のかけ方
- ・レセプトの書き方

⑤短大でもっと勉強しておけば良かったと思うこと

- 仕事によって必要とされる技能は様々だが、将来を見越して勉強をしておけば良かったという意見が多かった。
- ・パソコン（エクセル、イラストレーターなど）
- ・英語（メールや電話で役立つもの、会話）
- ・レセプトの勉強（改定時の対応）
- ・インターン、職場見学

⑥入社した4月から今までの仕事の変化と仕事に対する気持ちの変化

人間関係や仕事内容での悩んでいるという意見が多くあった。前向きに転職を考えているという声も多くみられた。

・仕事に理不尽さを感じ退職を考えた。仕事は仕事だと割り切って続けている。

・人員不足が深刻になり、退職を決意した。

・辞めたいと思うが、現実的にも社会的にも辞められないという責任がある。仕事が上手くいったときの快感や友人との交流が糧になっている。

・人と接する仕事に魅力を感じるようになり、転職を考えている。

・当初は転職を考えていたが、やりがいを感じるようになり、仕事を続けたいと考えている。

・やりたかった仕事とは違うと感じるが、勉強だと思って異動まで頑張ろうと考えている。

(2) 内定から就職(卒業)まで・就職活動から内定まで

①内定後から卒業までの心境

内定時期は4~6月が多いようだ。内定直後は共通して、喜び・安心感・開放感があったという意見だが、秋頃から不安を感じるようになったという声が多い。

・4月上旬に内定。10月頃、大手に決まった同級生の話に心が揺らいだ。

・4月下旬に内定。学校推薦だったため、他社は受けず、企業には満足していた。

・5月下旬に内定。9月頃、社会に出る不安と卒業の寂しさを感じた。

・6月上旬に内定。内定者の集まりが少なく不安を感じた。学校推薦を受けておけばよかったと少し後悔した。

②内定後から卒業までの期間

多くが、「アルバイトをしていた」と回答している。仕事を始めてから、もっと勉強をしておけばよかった、もっと色々なことに挑

戦すればよかったなどと感じている者が多いようだ。しておけばよかったと思っていることとしては次のようなことである。

・興味のある授業の履修

・社会で役立つ勉強、資格取得(英語、簿記など)

・クラスでの交流(友達作り)

・趣味さがし(社会人になったときの休みを有意義に過ごすため)

・趣味を極める(料理、書道など)

③内定ブルーの経験について

内定ブルーとまではいえないが、皆多少なりとも不安や焦り、寂しさを感じていたようだった。

・10月頃は心が揺らいでいた。

・4月からの不安より、3月の卒業の寂しさが大きかった。

・会社からの連絡が少なく、不安な日々を過ごしていた。

・内定式後、内定者と自分を比べてしまい、不安になった。

④短大からこんなサポートがあれば良かったと思うこと

学力、精神面など、様々なサポートを求める声があったが、多くは満足している・充分だったと回答している。

・事務職に対応したパソコン講座。(2, 3月ごろ)

・内定ブルーなどの、気持ちのケア。(年明けごろ)

・プラスワン講座をもっと早く行ってほしい。

⑤就職活動時期を振り返って感じること(自分の感情の変化・周囲との関わり・短大の支援)

急ぎすぎて後悔したという意見も、悩みす

ぎて機を逃したという意見もあった。キャリア支援センターの活用（相談）がキーになっているようだ。

- ・キャリア支援センターに頻繁に通ったことがプラスになった。

- ・キャリア支援センターは自分に合った企業を紹介してくれたと思う。

- ・早くから活動をはじめ、面接練習を重ねるべきだった。

- ・自分の行きたい方向性は早めに定めておくべきだった。

- ・学校推薦も一つのチャンスとして活用すべきだった。

- ・焦って手当たり次第面接を受けた。もっとじっくり取り組めばよかった。

⑥短大の教育で取り上げた方がよいと思う内容（キャリア教育を含む）

「社会に出た時、実践力になる講座を」という意見が多かった。

- ・効果的なエクセル活用法の授業。

- ・医療に特化した授業。

- ・スタンダードな資格の補習講座。

- ・社会で役立つ英語、英会話。

(3) プラスワンサポートについて

①プラスワンサポートの相談経験

転職を考える者からは、プラスワンサポートが非常に役立った、助かったという声があった。

- ・プラスワンサポートで転職の相談をした。

- ・派遣の登録方法や、職務経歴書の添削をしてもらった。

- ・担当の方が変わってしまったのでいきにくかった。

(4) プラスワンサポートに対する要望

プラスワンサポートには満足の声が多い。

卒業してからもサポートが続くことはとても心強いことのようにだ。

- ・卒業後にクラスメイトや先輩と交流する機会が欲しい。

- ・プラスワンレターが楽しみ。継続して欲しい。

- ・2, 3年後のニーズもあると思う。

- ・自分の担当の方が直接話を聞いてくれると相談しやすい。

- ・土日もありたいと利用しやすい。

6. 2 ケースライティングの実施

2009年度は、アンケート調査の結果を受けて、前年度の調査から明らかにしていた在学中の内定ブルーの問題や就職後に卒業生が直面している問題の具体的な状況を把握するために、ケースライティングを依頼し、事例を収集した。本学の卒業生は、在学中の授業の中で数回このケースライティングによって、自らが体験したことを客観的にふりかえる学習の技法としてこれを経験している。

6. 2. 1 ケースライティングの概要

- ・ケース作成者：2009年3月卒業生

- ・収集方法：6月のプラスワンレターに、ケースライティング依頼文書を同封した。

作成したケースは、メール添付ファイルで送付。

- ・収集期間： 2009年7月～2010年1月

- ・ケースのテーマ：1と2から選択して作成

テーマ1. 内定後から卒業・就職までの心情（内定を決めたとき、友人などとの関係、内定をもらった後に不安に思ったことなど）

テーマ2. 現在まで仕事で遭遇したこと・そこから考えたこと

(具体的に指示された仕事内容、要求されている仕事のレベルに関すること、必要とされる能力、仕事での日常的な出来事など)

- a.学んだことを活かして働いている 2件
- b.働きなら日々勉強 7件
- c.人間関係のトラブル 2件
- d.異動によるスランプ 1件

6. 2. 2 ケースライティングの結果

寄せられたケースは総計14件であった。

テーマ1. 内定後から卒業・就職までの心情に関するものが、2件。内容は、内定後の不安についてだった。

テーマ2. 現在まで仕事で遭遇したこと・そこから考えたことに関するものが12件。

次の4つにタイプわけできる。

ケースそれぞれの概要は図表22の通りである。

7. 結論と今後の課題

7. 1 まとめと考察

2008年度・2009年度の追跡調査を通して、次の3点が明らかになった。

まず第1に、卒業後1年目についている仕事

図表22 ケースの概要

	内容	概要	卒業コース
1	内定後の不安	「やりたい仕事をするんじゃなくて、やりたいことを見つけるために働いてもいいんだ」(内定後の面接までの悩みとその後)	秘書
1	内定後の不安	職場はアルバイトも多く、しかし年上ばかり、うまく指示を出してゆけるか、アルバイトとは違った責任感ももてるかが不安だった。	メディアデザイン
2-a	学んだことを活かす	1.入社直前の職種変更の依頼(営業アシスタントから営業職へ) 2.コミュニケーション能力の重要性(電話対応・社内伝達)	メディアデザイン
2-a	学んだことを活かす	年上の方との会話から学ぶことが多い。産能で養った能力を振る活用している。ビジネスマナー・PC・課題実践のパソコン教室運営	経営情報
2-b	日々勉強	仕事から学ぶ(顧客データ入力:ミスに気づいて問い合わせた。そのことで、他部署とよい関係を築けた)	医療・情報
2-b	日々勉強	半年後に先輩男性社員の仕事を引き継ぎ、勉強しながら努力している。充実感と責任感を感じている	医療・情報
2-b	日々勉強	「仕事の内容をきちんと把握すること」と「仕事に見合った知識を自分で吸収していくこと」を感じている	秘書
2-b	日々勉強	カウンター業務(パソコン力と電話対応必須)。知らない地名が出てくるとパニック。国内旅行から海外旅行へ、毎日が勉強の日々。	観光・国際
2-b	日々勉強	先輩の退職をきっかけに、資格取得やキャリアアップへの意欲。 建設業経理士の資格取得のために勉強を始めた。	経営情報
2-b	日々勉強	システムテスト。バグ票への記述。「誰が見ても伝わる説明」には、自分目線ではなく相手のことを考えることや文章力が必要。	メディアデザイン
2-b	日々勉強	入社5ヶ月。「与えられたものを処理するだけでなく、自ら考え発見をすること」「よき仕事相手として頼られる存在になりたい」	観光・国際
2-c	人間関係のトラブル	職場環境の大切さ。テキパキ先輩に合わせられず体調を崩すが、上司らの配慮で、先輩から独立し、ペースを取り戻した。	経営情報
2-c	人間関係のトラブル	受付の仕事。先輩が他の仕事をしていても、まずお客様のことを考え、自分だけで対応しないで、頼っていいのだと気づいた。	メディアデザイン
2-d	スランプ	配属される部署による大きな違い。人事部から経営企画室へ。充実していた日々から、仕事がない、「やめたい」と思う日々へ。	経営情報

については概ね満足しており、今後のキャリアについても、現在の仕事を優先して考え、日々の仕事が勉強であると捉えている。アンケートから両年度とも、約6割の卒業生が現在の仕事に満足しており、不満と感じているのは2割弱である。またほぼ同数が今後のキャリアについても、現在の仕事を優先的に考えたいとしている。満足している要因としては、「先輩や同僚との人間関係」が最も多く、「給与」や「仕事内容」より、職場での働きやすい人間関係によって満足度が高まることがわかる。ケースライティングに寄せられた職場での事例の題材にも、日々の仕事そのものが、自分自身の勉強になっているという内容が多くみられた。

第2に、短大で学んで現在の仕事に生かされていることは「ビジネスマナー」や「PC技能」である。アンケートで「仕事でできていると思うこと」に対して、1位Word（ワープロソフト）、2位ビジネスマナーが上位となっている。医療系の仕事についている卒業生も、「看護師とのコミュニケーション」「患者への接遇」を上位に上げている。これらは、本学で重点を置いている教育内容であり、卒業生の強みとなっているようである。

第3に、卒業直前のプラスワン講演会、卒業後のプラスワンデスク等の一連のプラスワン活動の有用性が確認された。アンケートからも、プラスワンレターを読んでいるものが半数以上いること、インタビュー調査では「存在そのものが安心感を与えてくれる」と評価している。またキャリア支援センターの相談内容に関しても、以前は感情の高まりで会社を辞めた後に相談に来る例が多かったが、辞める前に相談に来ることにより自分の

置かれている状況を見つめ直し問題解決に至るケースが増加していると報告されている。この点からも本学卒業生の早期離職を確実に減少させ、より良いキャリア形成に役立っていることが伺える。

7. 2 今後の課題

本研究の今後の課題としては次の2点が挙げられる。

第1に、在学中からのキャリア教育と卒業後のキャリア支援の連動を視野に入れた教育の必要性である。今回の調査から卒業後のキャリア支援については一定の評価が得られた。しかし、在学中のキャリアサポートとして、単に就職内定を決めることだけがゴールではないことは明らかである。就職内定後から入社までの間に起こるも「内定ブルー」と呼ばれる不安な時期を経験する場合や、本意な内定、内定企業とのミスマッチなどさまざまなケースが考えられる。卒業後のキャリアをどのように開拓して行くかを視野に入れた、キャリア教育が必要となる。初職において、希望通りの会社や職種・業種に就けなかった場合にも、自分のキャリアを長期的に捉え、努力する姿勢や方法を考えてゆくことができるようにすることは重要である。仕事をしながら、悩み、相談に来る卒業生が増加していることから、卒業後3年程度までのサポートが必要となるだろう。

第2に、キャリア支援センターが卒業生のニーズを把握・反映させ、社会状況などに対応した柔軟な対策を行っていくことである。キャリア支援センターは、2008年度の調査をふまえ、2009年度には土日などの休日にプラスワンサロン（相談会）を実施し、働く卒業

生の便宜を図った。このようにイベントを通じて来校する卒業生をサポートすることや社会環境の変化に対応して、柔軟に卒業生に対応できる仕組みは今後も卒業生の重要なよりどころとなるであろう。また、卒業生自身のキャリアを定期的にチェックする「キャリアドック」のような取り組みも今後検討していく。

新卒社員を時間をかけて育成するシステムが機能しなくなってきた現在の日本の企業の状況を考えると、本学のようなビジネス系短大における教育と卒業生へのサポート体制は今後一層必要になってくるであろう。

謝辞

本研究は、2008年度、2009年度自由が丘産能短期大学研究助成制度委託研究の指定を受けて行われた。委託研究のメンバーは、本論文の執筆者に、キャリア支援センターの穂積良浩氏、小板橋孝雄氏、学生総合サービスセンターの伊藤一実氏を加えた5名である。卒業生との調整など、職員の方々の尽力が大きい。ここにあらためて謝意を表します。

またアンケート調査・インタビュー調査・ケースライティングにご協力くださった卒業生の方々に心よりの謝意を表します。

参考文献

- 小野紘昭，池内健治，市川博，風戸修子，産能短期大学卒業生に関する職業と仕事の経歴についての調査研究，産能短期大学紀要，2000，vol.33号
- 厚生労働省編．労働経済白書―働く人の意識と雇用管理の動向―．平成20年版，2008．
- 産能短期大学FD委員会 卒業生調査ワーキ

ンググループ「卒業生アンケート調査書」．2004．